

8	香奠帳 (知事 南部光臣、郡長、校医など、香奠 全額204円70銭、ほか)	明治41 (1908)年	横長 1冊	山高関係 12-4
	幾之丞の逝去に際し、当時の群馬県知事や医師萩原密蔵(詩人・朔太郎の父)ら多くの人から香典が寄せられたことがわかります。			

幾之丞は群馬県内の学校教育の向上に精力的に取り組んでいましたが、満44歳で亡くなりました。

この資料は葬儀の際の香典帳です。1人めの「知事 南部光臣」は当時の群馬県知事です。2人めは「郡長 福田伊八」で、3人め「校医 萩原密蔵」は、前橋市出身で日本近代詩に大きな功績を残した萩原朔太郎(1886~1942)の父親です。

香典帳には県内外の多くの人々の名前が見え、本県で生涯を閉じた幾之丞の功績が偲ばれます。

なお、写真帳(文書番号10-1)には、前橋市内での葬列を撮影したと思われる写真もあります。

